



ポップ×ラウド×ガスマスク!? Central 2nd Sickが 14曲入りフル・アルバム『SUPERNOVA』で自称“厨二サウンド”を響かせる!!

Shimon (Vo) Ryo (Gt/Ch)
インタビュー: 小林 詩央里

—激ロック初登場になりますので、簡単に自己紹介をお願いします。

Shimon: ポップ、ラウド、ガスマスクを合わせた通称“厨二病”ことCentral 2nd Sickのヴォーカル、SHIMONです! よろしくお願ひします!
Ryo: 同じくCentral 2nd Sickのギター・コーラス担当のRyoです! よろしくお願ひします!

—2012年にバンドを結成されたとのことですが、結成の経緯をお話しいただいてもよろしいでしょうか?

Shimon: 現メンバーはバラバラですが、初期は大学の先輩後輩が集まったメンバーでした。バンドを始めるきっかけになったのはベスのHikaruが僕を誘ってくれたことです! そこに先輩だったRYOや以前のdLoz、KACCYが加入したり、ギターのYou、ドラムのJJが加入しました! マニキュレーターのBombに関しては謎です(笑)。

—“Central 2nd Sick”というバンド名は“厨二病”から由来しているとのこと。なぜこのバンド名にしたのでしょうか?

Shimon: バンド名を決めるのってこのバンドさんも1番悩むと思うんですけど、僕らも同じでした。そんな時に、コンビに売っていたネーミング辞典の帯に書いてあった“厨二病単語”を見て、僕らが“Central 2nd Sickとかどう?”って投げかけたら、Ryoが“いいじゃんそれで!”って感じて、わりとすんなり決まりました。Hikaruは“そんな適当でいいの(笑)?”って感じてました。Ryo: 今思えばもっと真面目に考えておけばよかったよね(笑)。

—Central 2nd Sickの音楽性を築くにあたり、影響されたアーティストがいましたら教えてください。

Shimon: 日本ではよくゆっぺさん、海外のラウド・シーンはもちろんですが、最近ではいろんなEDMとか聴いたりしてます。EDMに関してはRyoの影響が大きいですね!
Ryo: 僕は元々このバンドを組んだ当初はラウドなジャンルってほとんど聴かなかったです。でも、メンバーに色々すすめてくれて、初めてこういったジャンルをしっかりと聴いて衝撃を受けました。特にATTACK ATTACK、ASKING ALEXANDRIAのインパクトには凄まじいものを感じました。

—ちなみに、メンバー皆さんはどのような音楽を好んで聴かれるのですか?

Shimon: You以外のみんなは普段全然自分たちの音楽とは関係ないものを聴いてます。僕なんかはヒップホップとかR&Bとかを好んで聴きますね!
Ryo: 僕はエレクトロが大好きな人間なのでKREWELLA、Zomboy、Eptic、THE QEMISTS、PENDULUMなどですね。今回のアルバム『SUPERNOVA』にもシンセサイザーの音で影響されている箇所が多いと思います。あとVOCALOIDも結構よく聴きます(笑)!

—1stフル・アルバム『SUPERNOVA』完成おめでとうございませう! 14曲入りの大ボリュームで¥1,500+税という、かなりお得で親切的な価格設定ですね。

Shimon: この夏いろんなバンドさんのリリースが多いということもあるのですが少しでも多くのお客さんに手に持ってもらいたいと思って、この値段にしました! なのは是非とも手にとってください(笑)。Ryo: これまでギリギリの価格設定にまではたのめまわりの様々があつてこそたかと思ひます。とにかく1人でも多くの人に手にしてもらいたいのですよね。この協力を読んでる人もCD屋さんで見かけたら是非チェックしてみてください!

—『SUPERNOVA』というアルバム・タイトルに込めた意味とは?

Shimon: 1番最初のミニ・アルバム『MIXING』は、まだレーベルに加入しておらずサポートという形でリリースでした。今回が正式にレーベルに所属してから初めての作品なので、改めて“超新形”のようにインパクトを与えられたらと思い、名付けました。

—電子音を前面に効かせたサウンド・スタイルが特徴的ですが、曲作りをするにあたってのよ

うなところからインスパイアされていますか?

Ryo: 僕はいつも淡々と好き勝手に曲を作っていて、そこからShimonがいろんなイメージを教えてくれて“この部分こうできない?”って言うてくるんです(笑)。あとは完成したデモ・バージョンの曲をメンバーみんなに投げて意見をもらって微調整する感じですね。それでほとんど僕の曲が僕1人の曲ではよくメンバーみんなで作った曲として完成されていくんです。かつこく言えばみんなの意見からインスパイアされて作られていってるって感じですね(笑)。

—随所にJ-POP・ROCKを感じさせる展開やフレーズがありますが、日本の大衆的な音楽シーンからの影響もあるのでしょうか?

Shimon: このようなジャンルが苦手なお客さんにも通じるように、今回は日本語詞も多く取り入れています。今後も様々なかたに聴いていただけるよう、J-POPやJ-ROCKのような展開やフレーズは生かしていければと思っています。

—Track 6『Dahlia』やTrack 12『Keep your side』は、従来のエレクトロを取り入れたラウドロック・バンドと比べてもかなり大胆にミックスされていて、EDMの要素も強い楽曲に仕上がっていると思います。そのあたりは意識していましたか?

Ryo: 僕がエレクトロを作るのが好きっていうのももちろんあるんですけど、電子音を使った音楽って今はちょっと昔に比べるとすごい普及しましたよね。そういう意味でバンドとはまったくかけ離れたものを作品に入れても、みんなから受け入れてもらえるんじゃないかなと思って作りました。あと、前回の作品である『MIXING』の曲の一部を使用することで、僕たちの作品を聴くのは『SUPERNOVA』が初めてというふうな、過去の作品を知ってくださるきっかけになったり、興味を持ってくれるんじゃないかなと思ってます。

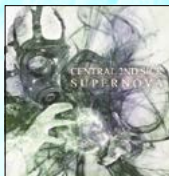
—リリースに伴い、全国7カ所での自主企画“Seven Deadly Festival”も決定していますが、ツアーに向けた意気込みを聞かせてください。

Shimon: まだまだ僕らの知名度で全国で企画を打つのは怖いところもありますが、多くのかたがたのサポートがあつて今回の企画が成り立っています! 全公演、全力で仲間たちと楽しみたい行くので皆さんも楽しみにしていただけたらと思います!
Ryo: Shimonと同じです! 頑張るっきたいです!

—今後、Central 2nd Sickは音楽シーン、またはラウドロック・シーンにおいてどのような存在になりたいと考えていますか?

Shimon: こういったジャンルの音は増えていますが、自分たちの音楽性を確立させていければと思っています! 僕なんかはバンドものこともあるのですが、これは“厨二サウンド”なんと言われるようになってきたりしてくれたり嬉しいですね(笑)。あとは自分たちが信じてくれているバンドを始める子たちなんかが出てくるような存在になれたらいいです。
Ryo: 新しいサウンドを提供して、常にまわりにも衝撃を与えられるような存在になりたいですね!

インタビューの続きは >> **GKIROK.COM**
激ロックウェブサイトをチェック!!



Central 2nd Sick
Supernova
2012.11.13 ON SALE!

LABEL: GO WITH ME
GENRE: ELECTROCORE, SCREEMO
FOR FANS OF: Fear, and Loathing in Las Vegas, THREE LIGHTS DOWN KINGS

2012年結成。“ポップ×ラウド×ガスマスク”を標榜する6人組Central 2nd Sick。結成翌年ミニ・アルバム2枚とシングルを1枚リリースし、今回満を持して14曲収録の1stフル・アルバムを完成させてきた。彼らの音楽性は、ラウドロックにエレクトロ・ダンス・ミュージック(EDM)をミックスさせるという最近ではそれほど珍しくないスタイルだが、彼らはそれだけに止まらずR&B、ホーローディやJ-POPまである種多種多様なジャンルからの影響までも感じさせるところは非常に興味深い。オールドスクールを駆使したボウボンヴォーカルに低音の効いたパンキング、シブシーな要素も取り入れたビグが新曲Track 2『MuSiQ』をまずは聴いてみたいと思います。 小林 詩央里